



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



練習中は真剣そのもの



年2回の定期公演「わいわい亭」



生徒が増えれば芸の幅も広がる…

「出石のまちを元気にしよう」を
合言葉に地域の活性化に「役
まを明るく面白くしようと、地域の起爆剤とし
て、いずし落語笑学校で校長を務める元気な男性を
紹介します。

渋谷勝彦さん(68歳)出石町小人

出石で自ら営むそば屋で出迎えてくれたのは、笑いでもまちを元気にしようと、「いずし落語笑学校」の校長を務めている渋谷勝彦さん。

出石で自ら営むそば屋で出迎えてくれたのは、笑いでもまちを元気にしようと、「いずし落語笑学校」の校長を務めている渋谷勝彦さん。

回、秋の「出石藩きもの祭り」と春の「出石初午大祭」の時期に、それぞれの前夜祭として出石永楽館で行われます。渋谷さんは、高座の設営から出陣子など、裏方の一人に徹して舞台を見守ります。「これまで、誰一人、途中で舞台から降りたことがない」と、生徒たちにも絶大な信頼を寄せます。渋谷さん自身も、時折、「笑花亭大丈夫」名で小噺合戦に出陣し、会場を盛り上げます。

笑いの途絶えないまちに！
集客もままならない出石を何とかできないものか、とみんな考えて、「まずはまちを明るく面白くしよう」と思い立ったのが始まりだとか。

「出石で落語をやってみな
いか」の呼び掛けに、地元住
民8人が応じ、平成23年3月
15日、「いずし落語笑学校」が
発足しました。

さらなる発展を目指して！
渋谷さんは「地域に活気が
出てきた。出石の者が演じ、
出石の者が聞くことで、顔見
知りになり、親近感がわく。
はたまた、町内で会えば声を
掛け合う、そういう相乗効果
の表れかな」と話します。

集まった生徒全員が落語初心者。落語のいろはも知らない素人の集まりに、渋谷さんは「アマチュア落語家の春歌亭丹馬(田中久典)さんに講師を依頼した。快諾を得て、何とか形になった」と当時を振り返ります。「今も月に2回、指導を受けている。しゃべり方も、発足当時と比べると格段に進歩している」と、生徒の上達に感心しきりです。

そんな雰囲気を持つ笑学校にも校則があります。「難しいことは言わない」と「満場一致」の二つ。この校則には「地元住民が面白いと思ってくれるには、自分たちが楽しく面白くやってこそ」との、生徒への配慮がうかがえ、渋谷さんは「チームワークは良い」と言います。反面、練習中でも、「落語のレベル向上のため、あえて批評することもある」と、素人落語とはいえ来場者にごまかしは利かない、そういう厳しさも垣間見えます。

「苦労は？」との問いに、「誰もが協力的で、興行的に困ったことはない」と渋谷さん。出石を中心に余興としての出演依頼が増えてきているといい、「強いて言えばもっと人材が欲しい」との本音も…。

生徒は、自宅や職場でも、古典落語を中心とした演目を練習しており、渋谷さんの目には、「落語が好きで、堅苦し

くなく、それでいて競争意識も高い。互いに良い刺激になっている」と映っています。

「笑花亭大丈夫」率いる落語家集団は、今日も目の肥えた観客の待つ会場に向かいます。

古くなく、それでいて競争意識も高い。互いに良い刺激になっている」と映っています。

出石永楽館は最高の舞台！
落語笑学校の公演は、年2

「笑花亭大丈夫」率いる落語家集団は、今日も目の肥えた観客の待つ会場に向かいます。

ま ち の 話 題

第27回北前まつり
地域の誇り「北前船」はななぬいへん

5月3日、北前館(竹野町竹野)周辺で、第27回北前まつり(同実行委員会主催)が開催され、多くの観光客らでにぎわいました。北前船パレードでは、竹野認定こども園や森本保育園の園児ら約30人が、沿道の「ワッショイ、ワッショイ」の掛け声に合わせて、北前船を力いっぱい引っ張りました。

また、砂浜では、約100人の小学生らが地引網を体験し、大量のアジやスズキなどを引き上げました。その後の抽選会で、ハマチを当てた濱田一優くん(尼崎市・小3)は「おばあちゃんと、刺身にして食べた」とうれしそうに話していました。



▲華やかな衣装で奏でる「練り込み太鼓」

5月3日、但東町薬王寺の大生部兵主神社で、五穀豊穰、商売繁盛などを願い、春の大祭が開かれました。大生部兵主神社は、牛の神様「牛頭天王」を祭り、農業や畜産業に深い関わりを持つことから、この大祭には、市内だけでなく、近隣市町からも多くの参拝客が訪れます。厳かな神事の後は、大人から子どもまで大盛り上がり「福餅まき」や、巫女姿の子どもたちによる神楽「浦安の舞」、地元保存会による「練り込み太鼓」が奉納されました。参拝客は興味深そうに見入り、惜しみない拍手を送っていました。

「天王さん」のお祭り！
おおいくべひちすじんじや
大生部兵主神社 春の大祭が開催



▲砂浜の特設ステージでは、子どもたちがまつりを盛り上げました

笑顔の輪

楽器の個性が織り成すハーモニー！
いっこさんげん
吉鼓参絃(但東)

「吉鼓参絃」。少し不思議な響きを持つこのバンドの名前は、同じ師の下で津軽三味線(木田流)を学ぶ3人と、その友人の太鼓(ドラム)奏者によって結成されたことに由来しています。

活動開始は平成21年ごろ。津軽三味線や民謡といった日本の伝統音楽に、ドラムを組み合わせることで音楽の新たな魅力や可能性を表現したいという思いから始まりました。



▲多種多様な楽器の音色が見事に合わさります！

器によって異なります。それらを上手に合わせて、「聴き手にとって心地よく、自分たちにとって楽しい」と思える音色を探すのが理想ですが、それが何より難しい」とメンバーたちは笑顔で語ります。

奏しています。聴いている人の喜びの声と、音楽を通じた他団体との交流やつながりが活動の醍醐味と話す皆さん。これからますますの活躍が期待されます。出演の依頼は、代表の野仁さんまで。☎080-6611-6405

それぞれの楽器の持つ伝統をしっかりと押さえながら融合を図ることで、個々の楽器のシンブルな音色が重なり合い、律动感や躍動感が生まれ、どこか懐かしく、それでいて斬新な音楽が誕生します。演奏の際に一番苦労するのは音合わせ。音のレベルは楽